

## 2026 年 3 月期 第 2 四半期 決算説明会での主な質疑応答

こちらは、2025 年 11 月 27(木)に開催した、決算説明会での主な質疑応答を掲載しております。

<ご留意事項>

こちらは、決算説明会での質疑を簡潔にまとめたものです。また、回答内容は2025年11月27日時点のものであり、見通し等は一定の前提に基づいているため、実際の業績などについては、経済環境、市場動向、製品の需要変動、価格変動、為替レートの変動などの重要なリスク要因や不確実な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

データセンター関連の製品について

**Q1. 電力機器セグメントのうち、データセンター関連の売上高は、現状、全体の何パーセントを占めるのか？  
また、粗利率はコンデンサセグメントと比較すると、どのような状態になるのか？**

A1. 詳細数字は公表していないためご容赦いただきたい。現在、データセンター関連も含め納入している進相コンデンサ、リアクトルの売上高は、説明会資料の P10 電力(国内)に含まれている。  
これら進相機器の粗利率についても公表はご容赦いただきたいが、電力機器セグメントの中で平均的な粗利率の製品である。コンデンサセグメントと比べると利益率は高い。

**Q2. データセンター向けなど、伸びが見込まれる分野で、中国メーカーと競合している領域はあるか？  
ある場合、価格競争の懸念はあるか？**

A2. データセンター向けでは、資料 P18「トピックス」で紹介したが、現在、売上が伸びている「電気設備」については国内規格に準拠した製品であるので、基本的には国内メーカーが競合になる。「無停電電源装置」や、「電力供給」、「空調設備」に納める製品については、製品により、中国メーカーと競合しているところがある。価格も含めて競争関係であると見ている。

中期経営計画 第Ⅲ期について

**Q1. 中期経営計画の売上高380億円達成のための設備は、今の設備で生産能力は賄えるか？新たな工場の建設予定などはあるか？**

A1. 売上高 380 億円達成のためには設備投資が必要になってくる。特に、産業機器事業については、2028 年度 136 億円という目標を掲げており、そこに向けて生産ラインなどの投資が必要になる。資料 P23「キャピタルアロケーション」の「投資」のところに記載している「増産設備の拡充」に含まれる内容である。工場については、そのロケーションを含めて、どの製品で、どのように増産するのかを見極めながら既存の建屋を利用するのか、新しい建屋を建てるのかなどを検討していく予定である。

その他について

**Q1.米国の関税影響について教えて欲しい。**

A1. 年初の通期業績予想の時にも説明したが、当社北米向けに輸出販売している産業機器用のコンデンサがある。利益影響は、約 1 億円を見込んでいたが、若干、軽減されている状況である。直接的な影響は軽微と認識する。一方で、当社のお客様が輸出する「間接輸出」については、正直どれだけの影響が出ているかは、なかなか把握する事が難しい。ここが不透明なので、しっかりと、不確実性に対して注視しているところである。

**Q2. 日中関係が悪化しているが影響はあるか？今後の動きをどう見ているか？**

A2. 様々な面で規制が施されることが予想されるが、現時点では、当社の事業にどれほどの影響が出てくるかは未知数である。事業領域としては、産業機器事業の青色のモールドコンデンサに影響が出てくる可能性がある。その辺りをしっかり注視していく。